

Ⅷ 地震発生時を想定した安全指導の進め方（中学校）

1 安全指導の基本な考え方

地震から自らの生命を守るために必要な事項について理解を深め、地震発生時には危険を認識し、状況に応じて的確な判断のもとに安全な行動がとれるような態度や能力を身に付けさせることが重要である。また、地震発生時及び事後においてすすんで他の人々や地域の安全に役立つことができる態度と実践力を養うこととする。

2 地震発生時における児童生徒の安全指導のポイント

- (1) 地震発生時の基本行動が理解でき、安全に避難行動がとれるようにする。
- (2) 教職員や大人の指示をしっかりと聞き、自他の安全を考えて、秩序ある行動がとれるようにする。
- (3) パニックに陥ることなく、沈着、冷静にその場に応じた行動が実践できるようにする。

安全確保のための基本行動

(1) 第一行動

《教職員の指示内容及び生徒の行動》

- ① 身体の保護・・・机の下などに潜らせる。頭部を保護させる。
- ② 避難路の確保・・・状況を判断し、窓やドアを開けて避難路の確保を行う。
- ③ 危険物の処理・・・電気、ガス、薬品、ストーブ等の危険な物を確実に処理する。

《生徒の行動内容》

- ① 身体の保護・・・机の下などに身を隠し、両手もしくは座布団等で頭部を保護する。
- ② 避難路の確保・・・教職員の指示により、素早く窓や出入り口を開ける。
- ③ 危険物の処理・・・場合によっては教職員の指示により、可能な限り手早く処理に協力する。

(2) 第二行動

《教職員の指示内容及び児童・生徒の行動》

- ① 状況の把握・・・負傷者の有無を確認し、状況に応じて安全に避難できる準備をさせる。
- ② 避難・・・教職員や放送等の指示により安全な場所に避難させる。その際、名簿等を所持する。
- ③ 人員の把握・・・名簿等により呼名で人員を確認し、本部に報告する。

《生徒の行動内容》

- ① 状況の把握・・・身の回りの状況を確認し、落ち着いて安全に避難できる準備を行う。
- ② 避難・・・頭部を座布団、カバン、本などで保護し、上履きのまま安全な場所に避難する
- ③ 人員の把握・・・学級ごとに整列し、呼名が受けられるように静かに並ぶ。

危険を予測した教職員の望ましい指示例

危険を予測し、どのような行動をとればよいのかを大きな声で的確に指示する。
特に幼児や低学年には指示とともに心の安定を図る言葉をかけ、落ち着かせることが大切である。

(指示例)

- ・「大丈夫、静かにして、落ち着きなさい。」
- ・「先生と一緒にだから大丈夫だよ。」
- ・「机の下に潜れ。」 「座布団をかぶれ。」
- ・「外へ出るな。」

(4) 保護者・関係機関との連絡調整を行う。

- ① 負傷した生徒の応急手当や救急車の要請
- ② 保護者への連絡と対応（被害の状況、生徒の引き渡し等を含めて）
- ③ 関係機関への連絡

学校長・教頭は、消防署、警察署、保健所、教育委員会などに緊急連絡及び状況報告を行い、今後の対応についての指示を受ける。

(5) 地震発生後の指導

- ① 地震発生時の生徒の安全確保のための安全指導・対応の総括を行う。

安全指導の充実

安全管理（施設・設備の再点検）

防災計画・防災組織の再検討

- ② 保護者・地域への対応

必要に応じて、文書通知や保護者会の開催等により、地震による被害の状況や今後の地震への対策や安全指導・安全確保の説明を行うと同時に、協力と理解を求める。また、カウンセラー等の専門家による「心のケア」を行う。

3 安全教育の進め方

すべての教育活動を通して計画的、継続的に進めていくことが大切である。指導・訓練に当たっては地域の実態や学校の地理的な特性及び生徒の実態を十分考慮して行うことが重要である。

指導・訓練の内容は、生徒の発達段階に応じて具体的に進めることが大切である。

※ 心身に障害のある生徒に対しては、個別的な指導も行いながら、安全確保に十分な配慮を行う。

(1) 学級活動や学校行事において安全指導の充実を図る

学級活動（指導案）

- ① 題材名 学校にいるとき地震が起こった。（第一次行動を中心に）
- ② ねらい 地震発生時の危険や心理状態を話し合い、地震発生時の安全確保のための基本行動がとれるようにする。

③ 展開

学 習 内 容・活 動	教 師 の 支 援	資 料
<p>◎ VTRや資料などを使って大地震の様子や被害の様子について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神・淡路大震災 ・ 北海道南西沖地震など 	<ul style="list-style-type: none"> ○ VTRや資料から具体的に地震の恐ろしさを認識させる。 ○ 地震は、いつ、どこで、どのような規模で起こるかわからない。自分たちの住んでいる町でも起こりうることを認識させる。 	<p>VTR 資 料 ① (作文)</p>
<p>◎ 授業中、教室で地震が起きたとき危険を予測し、身の守り方を考えさせ、発表させる。</p> <p>教室内の落下物、倒壊などを予想させる。 (蛍光灯、スクリーン、窓ガラスなどの落下) (本棚、テレビ、水槽などの倒壊)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 机の下にすぐに潜り、座布団やカバンなど身近なもので頭を保護する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全な身の守り方として、特に頭や顔を守ることを認識させる。 	<p>割れたガラス</p>
<p>◎ 特別教室・廊下・階段・体育館など安全点検を行う。</p> <p>各場所での危険を予測し、身の守り方を発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各場所を班で分担して生徒の目で危険の予測や安全点検をさせる。(安全点検等の大切さに気付かせる。) 	<p>プリント (危険箇所・身の全対策)</p>
<p>◎ 大地震発生時の基本となる行動や態度について話し合う。 (その時の心理状態を考えて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震が発生することによる被害や悲鳴などから自分の心理状態を考えさせる。(恐怖、心配、不安) 	
<p>◎ 次回「避難訓練」の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 慌てない、指示に従う、落下物に注意する、すぐに外に飛び出さない。 避難する時、パニックになることが一番危険であることを再確認させる。 	<p>4つの約束 「お・か・し・も」</p>

<評価>

- ・ 自らの生命を大切にしようとする意識が深まったか。
- ・ 慌てず冷静に危険を予測し、行動することの大切さが理解できたか。
- ・ 日常の危機意識や安全点検の大切さが理解できたか。

大地しん

神戸市立高羽小学校3年 中原しょう太

1月17日に、しん度7の地しんがきた。ぼくは、ドンと音がしたら、はっと目をさしました。それで、ふとんの中にもぐりこんだ。お父さんとお母さんがふとんを上において、ぼくをかばった。

こわかった。家がつぶれると思った。ジェットコースターよりこわかった。

神戸には地しんは、こないと思ったんだけど、お父さんとお母さんは、ふとんの上ののって、ぼくを、また、かばった。ぼくたちだけでも生きていたいと思っているんだ。

地しんは、もちろんすごくこわかった。でも、そのとき、ストーブをつけてなかったから、家がやけなくてよかったなと思う。まだゆれている。よほどながかったからだ。すると、どんどん物がたおれていったから、ダンスもたおれて、死ぬかと思ったよ。バリバリと、どンドン、どンドン、ひびがはいった。でも一カ所、だけだったよ。

こわいし、ブルブルふるえていたよ。

電気までもが、きえちゃったから、たいへんだった。

またかべがひびわれた。きっと、となりのへやの、ピアノまでもが、あの大きなじしんでゆれて、かべにぶつかったんだと思う。きぶんがわるくなる。

ジェットコースターみたいに、気分がわるくなりそうだった。ガタン、ガタンと電車みたいにゆれた。

岩と岩がぶつかりあって、地しんがゆれている。ものすごく岩がぶつかりあって、ものすごくゆれている。ゴゴゴとか、ドーンとか音がなっている。すごい音だ。

ものすごくこわかった。モチモチの木の豆太みたいに、なきそうだった。

ゆれる、ゆれる、どンドンゆれる。今までなかった地しんだ。こわくて、こわくて、ふとんの中であばれだした。

ようやく、おわった。でも、へやの中はむちゃくちゃだった。

震災に生きて 記録 大震災から立ち上がる兵庫の教育
(平成8年1月17日発行) 編集・発行/兵庫県教育委員会

(2) 避難訓練の実施

- ① 年間を通じて避難訓練を計画的に行い、いろいろな場面に応じた基本的な行動を体験させ、あわせて防災の啓発や人命尊重の意識の向上を図る。
- ② 地震発生時における教職員の指示や生徒の第一行動、第二行動を明確にする。
- ③ 避難訓練は、地震が実際に発生したことを想定し、十分な計画により実施するようにする。

(3) 家庭、地域社会における安全指導（家庭・地域社会との密接な連携・協力）

家庭や地域で実践的な教育の機会を設け、家庭や地域の一員としての自覚を育て、生徒の防災対応能力の向上を図る。

- ① 家庭における家族会議
- ② 防災センター等における体験学習の実施
- ③ 地域の消防署や公民館等における防災に関する講座や体験学習
- ④ 地域と学校の合同の避難訓練
- ⑤ 学校参観での安全教育の実施
- ⑥ 地域や家庭等が主体となる防災活動やボランティア活動へ参加など、非常時の場合も家庭と地域の絆が生かせる安全教育を進める。

4 教職員の研修の充実

- (1) 校内研修
 - ① 学校安全委員会等における研修
 - ② 校外研修出席者等における伝達研修
 - ③ 防災器具の使用訓練や防災備蓄備品の確認
- (2) 校外・地域・関係機関による研修
 - ① 心肺蘇生法講習会、安全教育指導者講習会などの参加
 - ② 地域消防署等による防災に関する公開講座・防災センターの体験学習への参加

5 安全管理（施設・設備の管理及び点検・整備）

- (1) 施設・設備の管理
テレビ、棚、書架、薬品庫等に転倒防止装置を設置する。消火栓、救助袋、消火器等の設備、器具、用具の配置図を教室等に掲示する。
- (2) 定期、日常及び臨時の安全点検の実施
 - ① 実施計画（チェックリストなど）を作成し、施設・整備や防火施設等の安全点検を実施する。
 - ② 学校及び地域の地形・地盤等を検討し、災害発生時における危険な区域等について、安全マップを作製するなどの対策を含めた安全指導を行う。
- (3) 安全度の評価・改善
施設・設備・防災体制等について総合的な点検を行い、安全度の評価・改善を行う。

6 保護者、関係機関との連携

地震は、災害の特性から学校だけが被害を受けるのではなく、地域災害として考えなければならない。そのため、生徒の安全確保には保護者、関係機関等と日ごろから十分な連携を図り、協力体制を築くことが重要である。

- (1) 県市町村との連携
学校は、行政機関の「地域防災計画」等の内容をよく理解し、その組織下での連絡調整を機能的に果たすことが大切である。
- (2) 警察署・消防署・保健所等との連携
避難場所や救急・救助のための警察署、消防署、保健所等への要請の仕方などについて事前に綿密な連携を取っておくようにする。
- (3) 保護者や地域との連携
学校の防災計画について保護者や地域に連絡し、災害発生時における学校の措置、避難場所、安全管理体制、救急体制、生徒の保護者への引き渡し方等の理解と協力を得る。
- (4) 情報連絡体制の整備
大地震などの災害に備えて関係機関等と協議し、情報連絡体制を整備しておくことが必要である。

避難の時に注意すること

避難の前に



直ちに海浜から離れ、高台などの安全な場所へ避難



先生、駅員、店員の指示に従って
落ち着いて避難
建物や崖のない広い場所へ



火の始末 初期消火
電気・ガス器具の確認



「お・か・し・も」

強い揺れがおさまったら…
しっかりと状況判断
落ち着いて行動



デマに注意



テレビ・ラジオ等で正しい情報

落ち着いた行動をするためには、ふだんからどんなことに心がけていけば良いのかな?



ガスの元栓や電気のブレーカーなどがどこにあるのか等あらかじめ確かめておくべきことが他にもあるかしら?

考えてみよう

地震が発生したとき、出入口を開けた方が良いというがそれはなぜだろう。また、自動車を路上に放置しなければならない時は、必ずキーを付けたままにしておく必要がある。それはなぜだろう。

Ⅸ 火災発生時を想定した安全指導の進め方（小学校）

1 取組のポイント

- (1) 日ごろ、学校での生活では、火災発生危険を感じることなく過ごしている。学校の中には、火事の原因となる火の気が多くあるというわけではないが、可燃物は紙類をはじめとして身近に数多く見つかることであろう。昔から、『災害は忘れたころにやって来る。』と言われてきた。また『備えあれば、憂いなし。』という言葉もある。どこであろうと、火事は起きるかもしれないという意識をもって、火災が発生した際には常に迅速かつ確実に対応できるようにしておくことが大切である。そのためには、普段からの避難訓練や、校内体制を確立しておく必要がある。
- (2) 児童とともに、点検カードを作成したり、校内の火災予防の仕組みを実際に調べることで、児童の火災予防に対する意識を高める取り組みも大切である。
普段からの火災予防の意識付けを繰り返すことにより、児童の安全に対する態度の向上につながっていくであろう。



2 校内の体制整備について

- (1) 年度初めに役割分担および各分担の担当者、その役割の活動内容を決定し、確認しておくことが必要である。それぞれの担当者は、その活動内容を十分に把握しておくことが大切である。
- (2) 職員の役割例

<ul style="list-style-type: none">・ 本部長 … 学校長・ 指揮（連絡） … 教頭・ 総括 … 教務、安全教育主任・ 児童管理 … 生徒指導部、学年主任・ 火元責任者 … 清掃分担責任者、教科担当	<ul style="list-style-type: none">・ 消火活動 … 体育部・ 救護活動 … 養護教諭、保健指導部・ 搬出作業 … 事務部、教務部・ 設備保全 … 教頭、教務、校務員 清掃美化担当
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- (3) 各分担の活動内容例

<ul style="list-style-type: none">・ 救護班 … 養護教諭を中心とし、負傷者の応急手当および救護に当たる。・ 児童管理班 … 避難した児童の管理および安全確保をする。二次避難が必要と判断されるときには、その避難誘導を行う。・ 安全点検消化班 … 可能な範囲の初期消火を行う。また、必要な際には校内の巡視を行い被害状況を点検把握する。・ 搬出班 … 重要書類の搬出を行う。・ 保護者連絡班 … 児童の保護者への引き渡しを安全かつ確実に実施する。引き渡す相手が児童の保護者であることを確認する。

3 避難訓練について

- (1) 火災は、現実には起こってはいけないものであるが、万が一に備えて避難訓練を定期的に行うことが大切である。実際に火災が起こった状況を想定して、訓練を真剣に行うように計画を立てる必要がある。毎年同じことの繰り返しではあっても、防災計画全般についても見直しを行うようにするべきである。

避難経路については、実際に校内を見て周り、避難するときに邪魔になる物やスムーズな避難の妨げとなる事物はないかどうかを確かめておく必要がある。

また、避難後に児童を保護者へ引き渡し方も計画しておくことが望ましい。できれば避難訓練の際に、保護者へ協力をお願いし、実際に引き渡しを行うことができるようにしたい。

(2) 避難訓練実施例

- ① 目的 校舎内での火災発生時における避難の練習を行い、児童の安全確保のための訓練を行う。
- ② 想定 校舎内で火災が発生したため、直ちに校舎外へ避難し、運動場隅に避難することとする。
- ③ 留意点
 - ア 緊急事態であるが、節度ある行動をするようにさせる。
 - イ 指導者は、児童があわてて危険を招くことがないように、明確に指示を与えて安全を図るように配慮すること。また、避難誘導時は児童全員の動きをいつでも確実に把握すること。
- ④ 避難プログラム

時刻(分)	内容 (校内放送)	教職員の行動 児童への指示	児童の行動
0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常ベル ・ 「これから避難訓練を行います。」 ・ 「火事です。」 ・ 「〇〇(場所)で火災が発生、運動場へ避難しなさい。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中止 ・ 放送を聞くように指示する。 ・ 教室…廊下へ整列させる。 ・ 体育館…その場に整列させる。 ・ 運動場…校舎向きに整列させる。 ・ 補助が必要な学級への応援と補助。 ・ 校舎出入口の安全を確保し、安全な避難路を指示する。 ・ 119番通報 ・ 開門および緊急車両の誘導 ・ 初期消火用意 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あわてない。 ・ 静かに放送を聞く。 ・ 教師の指示に従う。 ・ 窓を閉める。 ・ 電気を消す。 ・ ドアを開ける。 ・ しゃべらないで整列する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難開始 ・ 運動場隅(避難場所)に本部を設置し、役割分担に従い学校長を緊急避難時における本部 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難の指示に従い、指導者は明確な指示を与え、速やかに児童を避難させる。出席簿を携帯する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難時の約束 おかしも 大切 おさない かけない (走らない) しゃべらない

	長とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室…室内にだれもいないことを確かめ、ドアを閉め避難誘導を開始する。 ・ 体育館…人数を確認し、避難誘導を開始する。 ・ 運動場…人数を確認し、校舎より離れた場所へ移動して待機する。 	もどらない <ul style="list-style-type: none"> ・ 何も持たずに、上靴のまままで避難誘導に従い、運動場（避難場所）へ行く。 ・ 運動場（避難場所）へ出たら、指示があるまで、静かに待つ。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動場隅（避難場所）に集合 ・ 本部による避難人数の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級の人数を確認し、本部まで報告する。 ・ 児童を落ち着かせ、静かに待つように指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員の避難完了が確認されるまで、整列して静かに座って待つ。 ・ 指示が出ることがあるので、注意しておく。
10	・ 本部長（校長）の話	・ 児童の健康観察、負傷者の有無を確かめる。	
15	・ 避難訓練終了	・ 保護者への児童引き渡しの訓練も、避難訓練の際に実施しておく。	

4 火災を防ぐ工夫

(1) 学校は、人的な防災のシステムだけでなく、さまざまな設備や機器によって災害を未然に防ぐ仕組みを取り入れている。日ごろは何気なく見過ごしている場所や、気付かないような小さな機器などの何重にも火災に備えた仕組みを備えている。

社会科では、4年生の学習で「火災を防ぐ」内容の単元が設定されている。4年生では、学習の中で取り上げることで、防火に対する意識を高めることができる。

(2) 展開例

- ① 単元 社会科4年「火災を防ぐ工夫」
- ② ねらい
- ア 地域や学校には、火災から身を守るための様々な設備や機器が備えられていることを知る。
- イ 火災から身を守るために、自分たちでもできることを考え、防火への関心を高めるようにする。
- ③ 指導計画
- ア 事前指導 学校の中の防火や消火のための施設を調べ、学校の平面図に消化器や消火栓、火災報知器、防火扉などを記号化して書き入れる。通学路や家の周りなど、地域の中にも防火のための施設があるかどうかについて話し合う。
- イ 本時の指導 火事に備えた施設設備、火事を早く消す仕組みについて調べる。家の人や消防団、自治会の防災担当者の方に、地域の防火のための施設設備や取組を聞く。
- ウ 事後指導 地域防災マップ作り、防火ポスターや新聞の作成

④ 展開例

学習内容・活動	教師の支援	準備物・資料
<p>1 校内で見つけた防火や消火のための施設設備について、その種類や目的を調べる。</p> <p>2 学校内だけでなく、地域にも様々な消火や防火のための設備や施設、器具があることを調べるために、話し合う。</p> <p>3 実際に調べる計画を立てる。 (調べること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にある火災に備えた設備や施設 (調べ方) ・ 家の人に聞く。 ・ 町の人に聞く。 ・ 消防署や市役所、役場の人に聞く。 (まとめ方) <p>地図、ポスター、パンフレット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備や器具の種類や機能について、その目的や用途の違いがあることを気付かせる。 ・ 設置している場所が異なっており、それには意味があることに着目させる。 ・ 子どもが自分たちの町のことを調べるために、自らその取り組みを進めることができるような学習計画を立てさせ、以下の点に留意して指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような内容について調べるのか。 ○ どのような方法で調べるのか。 ○ 調べてわかったことを、どのようにまとめるのか。 ・ 調べること、方法、まとめ方を記録しまとめることができるように、記録のためのワークシートを用意し、見たことや聞いた話が記録に書き留めておけるようにさせる。 ・ 調べたことも地図に書き込んだり、新聞にしてみんなに知らせるようにさせる。 	<p>校内防火マップ (学校平面図に設備などを記号で書き入れたもの)</p> <p>校区地図 (通学路がはっきりと示されている物がよい)</p> <p>学習計画カード</p> <p>ワークシート</p>



X 風水(雪)警報発令時を想定した安全指導の進め方 (幼稚園)

1 取り組みのポイント

- (1) 災害時における幼稚園の対応の在り方
- (2) 幼稚園における防災教育の在り方
- (3) 地域・家庭ぐるみの防災体制づくり

2 取り組みの概要

(1) 取組の趣旨

幼児の安全を保障することは私たち教職員に課せられた第一の使命であり、幼児への安全教育は全てにおいて優先されなければならないと考える。

幼児なりに災害や防災についての基礎的・基本的なことを理解し、正しい知識や態度を身に付けられるようにすることを目的とする。幼児が、教師の指示に従い、安全な行動がとれるようにするとともに、日ごろの訓練を生かし、落ち着いて対処できるように、安全指導と安全管理の両面から効果的な安全指導を進めることが大切であると考えている。

(2) 取組の内容、方法

① 避難訓練年間計画

年間計画に基づき、各月の計画を全職員で話し合い訓練を行っている。また、訓練後の評価、反省を全職員で共通理解することによって、次回の訓練に生かせるようにしている。

★ 資料 A 参照

② 火災を想定した避難訓練

★ 資料 B 参照

③ 地震を想定した避難訓練

★ 資料 C 参照

新入園児の保護者が幼稚園で使用する防災頭巾を作ってください。手作りで大変だが、保護者も訓練の重要性、防災頭巾の必要性などを理解し、協力的である。

④ 風水(雪)警報発令を想定した訓練

保育時間中に非常事態が起こった場合に、保護者に幼児を敏速かつ安全に引き渡しができるように、訓練を行った。保護者にも、災害への認識を深め、予防措置と災害に対する備えの必要性を考え、実施した。

★ 資料 D 参照

★ 園児引き渡しカード

園児引き渡しカード			〇〇幼稚園	
園児名		男 女	年少・年長	組
住所				
電話				
緊急時の 連絡先	氏名		園児との関係	連絡先 TEL ()
	氏名		園児との関係	連絡会 TEL ()
保護者以外の 引き渡し者名	氏名		園児との関係	
	氏名		園児との関係	

(3) 実践の成果

災害はいつでも、どこでも起こりうるということを前提に、幼児の安全を第一に考え、幼稚園における防災教育の在り方を探ってきた。

避難訓練では、災害の種類や時間帯、保育の形態等様々な想定を考え、幼児が避難の仕方、避難経路、避難場所について、直接体験を通して理解し、災害時に落ち着いて避難できるようにすることが重要である。そのために十分な計画と、実践、反省、評価の積み重ねが大切である。

平成〇〇年度避難訓練年間計画

月	災害の種類	発想定場所	避難場所	年齢	ねらい	内容	指導上の配慮
4	火災	保育室 職員室 遊戯室 活動場 活動場 活動場	園庭	4 5	<p>火災の発生を知り、避難場所を知り、避難行動をとる。</p> <p>火災発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>火災発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>
5	火災	保育室 職員室 遊戯室 活動場 活動場	園庭	4 5	<p>火災発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>火災発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>
6	火災	保育室 職員室 遊戯室 活動場 活動場	園庭	4 5	<p>火災発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>火災発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>
7	地震	保育室 職員室 遊戯室 活動場 活動場	園庭	4 5	<p>地震発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>地震発生時の避難行動を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>	<p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p> <p>避難時の注意事項を学ぶ。</p>

避難訓練評価と反省（火災）

日時	〇〇〇〇年 〇月 〇日（ ） 10時～10時45分
災害の種類	火災
想定	保育室で遊んでいるとき、職員室より出火、避難する。
避難場所	園庭
歳児	4歳児 5歳児
ねらい	火災発生を知り、教職員の指示に従い、落ち着いて行動する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム室で、火災の恐ろしさを知る「アニメ」を全クラス同時視聴する。 ・サイレンの音を聞く。 ・担任のところに集まる。
指導上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・サイレンの音や、通報の内容を聞き取らせる。 ・「おさない」「かけない」「しゃべらない」の合言葉を知らせる。 ・保育者はクラスの人数を確認して、主任に報告する。 (出欠の様子を把握しておく)
評価と反省	<p>★避難行動</p> <ul style="list-style-type: none"> *4歳児 ・自分のクラスに並べず、外のクラスに並びに行く幼児がいた。 ・母親と離れにくく、泣いて避難できない幼児がいた。 *5歳児 ・集合が早かった。
	<p>★避難誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳児では、泣いている幼児を保育者が抱いたため、「集まれ」の合図を出せなかった。 ・幼児が「集まれ」と「並べ」の合図を混同してしまい、順番を意識して並ぶことに必死になってしまった。
	<p>★全体評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アニメ」の中での火災や地震は、自分たちの身近な出来事であると感じている幼児が少ない。 ・初回にしては、担任の所に集まることはできていた。今回は、リズム室という狭い場所での集合であったので、集まりやすかったのだと思う。 <p>★今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災や地震が、自分たちの身近な所で発生していることを、日常生活の中やテレビニュース、新聞などを通して知らせていく必要があるのではないか。 ・訓練のための集合でなく、日常保育の遊びの中で「集まる」ことを意見させることも大切ではないか。 ・4歳児は集まるときに友達と手をつないで並ばなければと思い、必死で友達を捜すが見つからずに泣いて走り回る姿があり、「集まる」ことと「並ぶ」ことについて考える必要があるのではないか。

避難訓練評価と反省（地震・火災）

日時	〇〇〇〇年 〇月 〇日（ ）10時30分～ 避難訓練後、保護者の消火活動を見る。
災害の種類	地震・火災発生
想定	保育室で遊んでいるとき、県下全域に地震発生、その後職員室より出火、避難する。
避難場所	保育室の安全な場所に1次避難、その後園庭（総合遊具前）に避難する。
歳児	4歳児 5歳児
ねらい	・地震による火災であることを知り、保育者の指示に従い、落ち着いて行動する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の中の安全な場所に、頭巾をかぶって避難する。 ・速やかに、喋らず避難する。 ・火災発生の場合と指示を聞き、園庭に避難する。 ・保護者の消火活動を見る。（消防自動車、消火器など） ・講話（消防署員） ・講評（園長） ・上靴の汚れを取る。
指導上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな災害があることを経験させ、避難経路や行動の違いに気付かせる。 ◎放送内容 <ul style="list-style-type: none"> ・「避難訓練です」 ・「地震です。先生の言うことを、聞きなさい」 ・「職員室より火が出ました。先生の言うことを聞いて避難しなさい」 ・頭巾を正しくかぶっていないため、階段や前方が見えにくくなっている幼児がいないか確認する。
評価と反省	<p>★避難行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭巾をかぶるまで1分30秒、出火後、避難して集合するまで1分50秒かかる。 ・頭巾をかぶっての行動は素早かったが、園庭に出て並ぶとき、みんな同じような頭巾なのでクラスの友達が分かりにくく、並ぶことができず、4歳児、5歳児共にとまどいが見られた。 <p>★避難誘導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の保育室での安全な場所への避難を経験しているので、部屋での誘導はしやすかった。 ・頭巾をかぶっての外への避難は初めてで、保育者も自分のクラスの幼児を掌握できず、避難場所への誘導に時間がかかってしまった。 <p>★全体評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室では時間的にも早くできたが、場が広がった園庭での避難の集合では、保育者も幼児にもとまどいが見られた。 ・頭巾で視界が狭くなり、他のクラスと接近しており、幼児が避難場所に並びにくそうであった。 <p>★今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭巾をかぶっての訓練を繰り返すことで、集合時間は短縮されるのではないか。 ・1次避難から2次避難への誘導は、保育者が慌てずに、全体を把握しながらしなければならないのではないか。

平成〇〇年〇月〇日

保護者のみなさまへ

〇〇小学校附属幼稚園

お知らせとお願い

◎災害時および警戒宣言発令時における園児引き渡し訓練について

「災害は忘れたころにやってくる」と申します。

当園でも、大切なお子さんの命を守るため、防災および消防計画を作成し、その計画に従って毎月避難訓練を行っております。9月は、「大型台風の接近に伴い暴風雨警報発令」という想定で、園児を安全に降園させるための引き渡し訓練を下記のように行います。保護者のみなさまには、お忙しいこととは思いますが、万一の場合に備えお子さんの安全のため、御協力をお願いいたします。

記

- 1 日 時 〇月 〇日 () 11時 ～ 12時
- 2 目 的 非常災害時および、警戒宣言発令時の保護者への園児引き渡しを円滑に行う。
- 3 場 所 各保育室
- 4 想 定 保育中、台風の接近に伴い、奈良県全域に暴風雨警報が発令された
- 5 訓練内容

保 護 者	園 児
① 園からの緊急電話連絡を受ける (各クラス役員に11時頃に連絡)	① 警報の発令を知り、降園の準備をする
② クラス連絡網に従い各家庭に緊急連絡を回す	② 保護者の迎えを待つ
③ 園児を引き取りに行く	③ 速やかに降園する
④ 担任の確認を受け速やかに降園する	

緊急連絡網の回し方

- ① 〇〇幼稚園、〇組の連絡網です。
- ② 園児引き取り訓練です。至急、園に駆けつけてください。
- ③ 次の人に連絡をお願いします。

《引き渡し手順について》

- 保護者の方は連絡網による連絡を受けてから家を出てください。
- 兄弟・姉妹で在園している場合、早く回ってきた方の連絡網で駆けつけてください。
年少児のクラスで一緒に待機しています。
- 到着後、すぐ担任に「〇〇です」と伝えてください。
。
- 担任がお迎えの方を確認してから、園児を連れて速やかにお帰りください。
。

その他

- ※ 園児を引き取りに来られる方は、「園児引き渡しカード」に届けられた方とします。
- ※ 次の人が留守の場合は、その次の人に連絡してください。(引き渡しの時、次の人が留守であって連絡が回っていないことを担任に伝えてください。)
- ※ お子さんが園を欠席されている場合でも、連絡が回ってきた時には、次の人に連絡を回してください。
(最後の方は、役員が連絡を戻すようになっていますが、今回のように緊急事態が発生の場合は、役員であっても、次の人に連絡した後は、直ちにお子さんの所に駆けつけてください。)
- ※ 降園途中、通園路の危険箇所の確認、および危険回避の指導をお願いします。
- ※ 自転車、自動車の利用はなるべくご遠慮ください。
(実際の場合は(火事や地震・水害等)道路が通行止めになり、自動車の走行はできません。)
- ※ お迎えがあるまで、園で責任を持ってお預かりしますので、安心してください。

..... きりとり

引き渡し訓練でお気付きのことや、感じられたことをお書きください。

○緊急連絡は、うまくできましたか (は い ・ いいえ)

いいえと答えた方、そのわけは

()

○引き渡しの方法はどうでしたか

○その他